

協力」と比較し、与党への協力の度合いは低いとみられていますが、少数与党にとっては見逃せない政権手法です。

1989年7月の『第15回参議院議員通常選挙』は土井たか子率いる社会党が躍進。選挙後、「衆参ねじれ国会」となり、宇野宗佑内閣は与党のみで法案を成立させることが不可能となりました。

以後、自民党は2016年7月『第24回参議院議員通常選挙』の後に平野達男が自民党入りするまでの27年間、参議院での単独過半数を回復できず、公明党、民社党と協力した『自公民路線』が続きました。

1990年2月の『第39回衆議院議員総選挙』では自民党が安定多数を獲得したものの、「衆参ねじれ国会」は続いており、海部俊樹首相は引き続き公明党と民社党に協力を呼びかけ「自公民路線」を維持、自公民3党の協議で法案の成立が図られました。

連立政権で欠く事の出来ないのは、1994年6月に誕生した「**自社さ連立政権**」です。自民党・社会党・新党さきがけによる連立政権です。

「**自社さ連立政権**」誕生までは、自民党と社会党はまさに「水と油」の関係であり、誰もが両政党が連立を組むなどとは想定もしていませんでした。この政治背景には、少数与党の自民党を主導する竹下登により、社会党とさきがけとの連立協議が水面下で進み、連立が組まれました。戦後政治の「55年体制」にピリオドを打った政権とも言えます。

自衛隊の合憲性さえ一致しない自民と社会でしたが、「何があっても政権に固辞したい自民党と、政権についてみたい社会党の野合連合」とも揶揄されました。

1996年10月の『第41回衆議院議員総選挙』で、社会民主党（同年1月に党名変更）・さきがけの両党は総選挙で大きく議席を減らし、壊滅的な打撃を受けました。半面、自民党は息を吹き返し議席を増加、衆院での過半数を回復します。総選挙後に成立した「第2次橋本内閣」で、社・さ両党は閣外協力に転じ、事実上、「**自社さ連立政権**」は終焉します。

2009年8月の『第45回衆議院議員総選挙』は自民党が大敗。選挙後、民主党と社会民主党、国民新党の三党で「**連立政権**」が発足。9月16日に鳩山由紀夫が首相に就任、民主党内閣が誕生。

翌2010年7月、与党・民主党は菅直人首相のもとで『第22回参議院議員通常選挙』を実施。民主党にとっては政権交代後、初の与党としての大型国政選挙であり、対する自民党は野党としてのぞむ初の大型国政選挙でした。結果は、民主党が参議院で過半数割れし、「衆参ねじれ国会」となり、民主党政権への求心力低下が起きました。以降、与党の民主党は野党の自民党、公明党と「社会保障と税の一体改革」の為の「**三党合意**」を結ぶなどし、法案成立を図っています（大枠では、これも『パーシャル連合（部分連合）』）。

2012年11月16日に衆議院が解散。12月16日に実施された『第46回衆議院議員総選挙』で与党の民主党が大敗。自民・公明で政権交代が確定。同年12月26日、野田佳彦首相（野田第3次改造内閣）の総辞職に伴い、安倍晋三自民党総裁が首相に任命され、「第2次安倍内閣」が誕生。自公による「**連立政権**」が誕生し、以後、2020年9月まで安倍連立内閣は続きました。

2020年9月16日～2021年10月4日：菅自公連立内閣

2021年10月4日～2024年10月1日：岸田自公連立内閣

2024年10月1日～：石破自公連立内閣

今総選挙後、今後の政権の枠組みが注目されるところです。